

アイヌ生活文化再現マニュアル

先祖供養

【シンヌラツパ・イチャルパ】

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

発刊にあたって

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は、平成9年7月の創設以来、アイヌ文化の振興、アイヌの伝統やアイヌ文化に関する知識の普及と啓発、アイヌ文化等に関する研究の推進や助成などの各種事業を実施しております。

そうした事業の一環である「アイヌ生活文化再現マニュアル作成事業」は、アイヌの伝統文化を、映像や音声、文字などによって記録し、アイヌの人々をはじめとして、広く一般の人々や研究者の利用に供することにより、アイヌ文化の伝承・保存を図ることを目的としています。

本マニュアルがより多くの人々の利用に供され、アイヌ文化の振興が推進されるとともに、我が国の多様な文化の一層の発展が図られれば幸いです。

目 次

はじめに

シンヌラツパ【平取】 貝澤耕一家

I 概 略	9
II 準 備	10
サケヌンパ (酒漉し)	10
イナウケ (イナウ作り)	11
シト・料理作り	11
III チセ (家) とイナウチパ (祭壇)	13
IV 供物・用具	15
供 物	15
用 具	16
V カムイノミ	17
アペフチカムイへの祈りことば	19
先祖へ供物を送ることば	22
供物をアペフチカムイに捧げる	23
供物を運ぶ	24
チャルパ	25
イナウをアペフチカムイに納める	26
イナウエタイエ (イナウを納めるときの祈りことば)	27
VI 後片づけ	28

イチャルパ【新ひだか】 葛野次雄家

I 概 略	29
II 準 備	30
サケヌンパ (酒漉し)	30
イナウケ (イナウ作り)	31
III チセ (家) とヌササン (祭壇)	33
IV 供物・用具	35
供 物	35
用 具	36

V	カムイノミ	38
	アペフチカムイへの祈りことば	39
	イチャルパ（先祖供養）	52
	祖父母または父母の命日や思い出したときなどに唱えることば	52
	供物を運ぶ	54
	チャルパ	54
	終了の報告	56
	後片づけ	57
	イナウをアペフチカムイに納める	57
VI	後祭り	58
	おわりに	61
	参考文献	62

— 凡 例 —

- ・本マニュアルの解説編は、映像編と同様、貝澤耕一家が平成18年1月2日、葛野次雄家が平成17年11月19日にそれぞれ実施した先祖供養の映像記録を編集したものです。
- ・儀礼の文字化にあたっては、アイヌ語名称を多く使用しました。また、映像編で入れることのできなかつた解説等も記しました。したがって、映像編と文言等で一部異なる箇所があります。

はじめに

古い時代、アイヌの人々は、カムイモシリ（神々が住む世界）とアイヌモシリ（人間が住む世界＝現世）、ポクナシリ（死後に住む世界。カムイモシリなど地域によっていろいろな呼び方があります）と、三つの世界があり、アイヌモシリで死んだ人はポクナシリにいき、そこでアイヌモシリと変わらぬ生活をすると考えていました。

そうしたポクナシリで生活する人々——特に親族に対して供物を送り、故人を偲ぶとともに、現世の生活が何事もなく無事に暮らせるようにと庇護を願って行ったのが先祖供養で、イチャルパ、イチャラパ、シンヌラツパ、あるいはシヌラツパと呼ばれていますが、特に旭川を中心とした上川地方ではイアレと呼ばれています。

現代ではお彼岸やお盆になると、供物をもって墓参りをしますが、古い時代のアイヌの人々は墓参りはせず、自分の家の側—ヌササンに向かって左側につくられた先祖供養用のヌササンで供養を行いました。供養は、最初に屋内のアペフチカムイ（火の神）に祈りを捧げ、その後、女性を中心となって屋外のヌササンに供物を撒く（チャルパする。そうすることにより、供物がポクナシリに届く）とともに、その場にいる人々も供物を食べます。さらに、歌や踊りを踊って楽しめます。これは、ポクナシリにいる人々とアイヌモシリにいる人々がともに楽しむという考えによるものです。

こうした供養は、イオマンテやチセノミといった大きな儀礼や、春秋の農耕に関わる儀礼などに付随して行われましたが、近年では、月日を決めて行われるようにもなりました。

本マニュアルは、貝澤耕一家（平取町）と葛野次雄家（新ひだか町）で行われた先祖供養を再現したものです。

シンヌラッパ【平取】

貝澤耕一家
平成18年1月2日

I 概 略

本編は、平成18年1月2日、平取町の貝澤耕一さん宅で行われたシンヌラッパ（先祖供養）を記録したものです。

貝澤家では毎年、親族が揃う正月に先祖供養を行っています。



写真1



写真2

Ⅱ 準備

サケヌンパ（酒漉し）

儀礼の前日にサケヌンパ（酒漉し）が行われます。
酒は1週間ほど前に、米・麴・イナキビ・あわなどを材料に仕込み発酵させます。



写真3

漉したときにザルに残る酒かすをシラリといいます。



シラリ

写真4

酒はシントコ（行器）に入れ、一晩寝かせます。



写真5

イナウケ（イナウ作り）

イナウを作ります。貝澤家ではチェホロカケイナウという、木の根元を手前にして木の目を逆に削ったイナウを2本作ります。



写真6



写真7

これは、アペフチカムイ（火の神）とイナウチパ（祭壇）に捧げるためのイナウです。



写真8



写真9

シト・料理作り

儀礼の当日、供物を作ります。
シト（米とイナキビで作る団子）は必ず作ります。



写真10

形を整えたシトを茹でます。



写真11

茹で上がったシトを3つに切ります。この3つに切ったシトをアチャシトといいます。



写真12

シトの他、供物として伝統的な料理を数種類用意します。



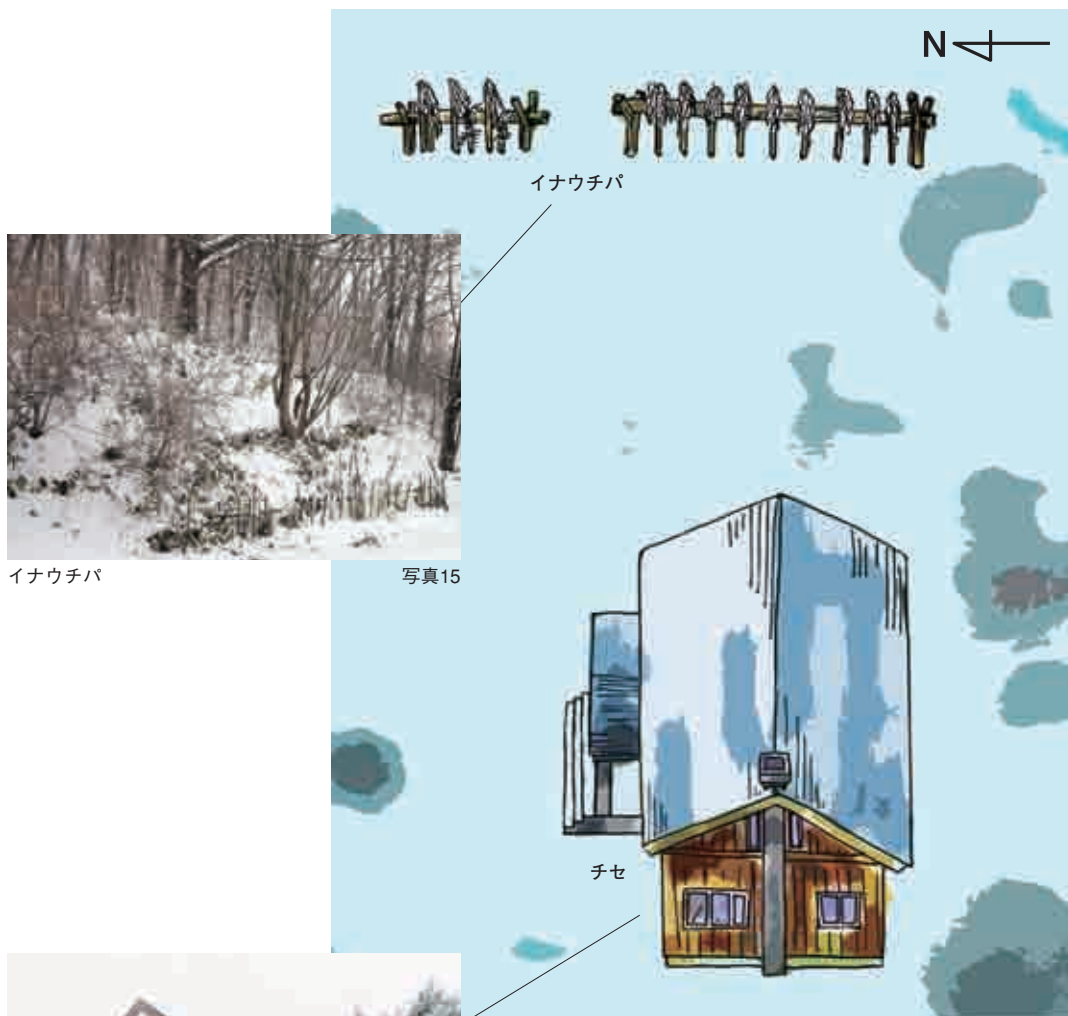
写真13



写真14

Ⅲ チセ（家）とイナウチパ（祭壇）

儀礼は貝澤家のチセ（自宅）で行われます。チセの東にはイナウチパが設けられます。



イナウチパ

写真15



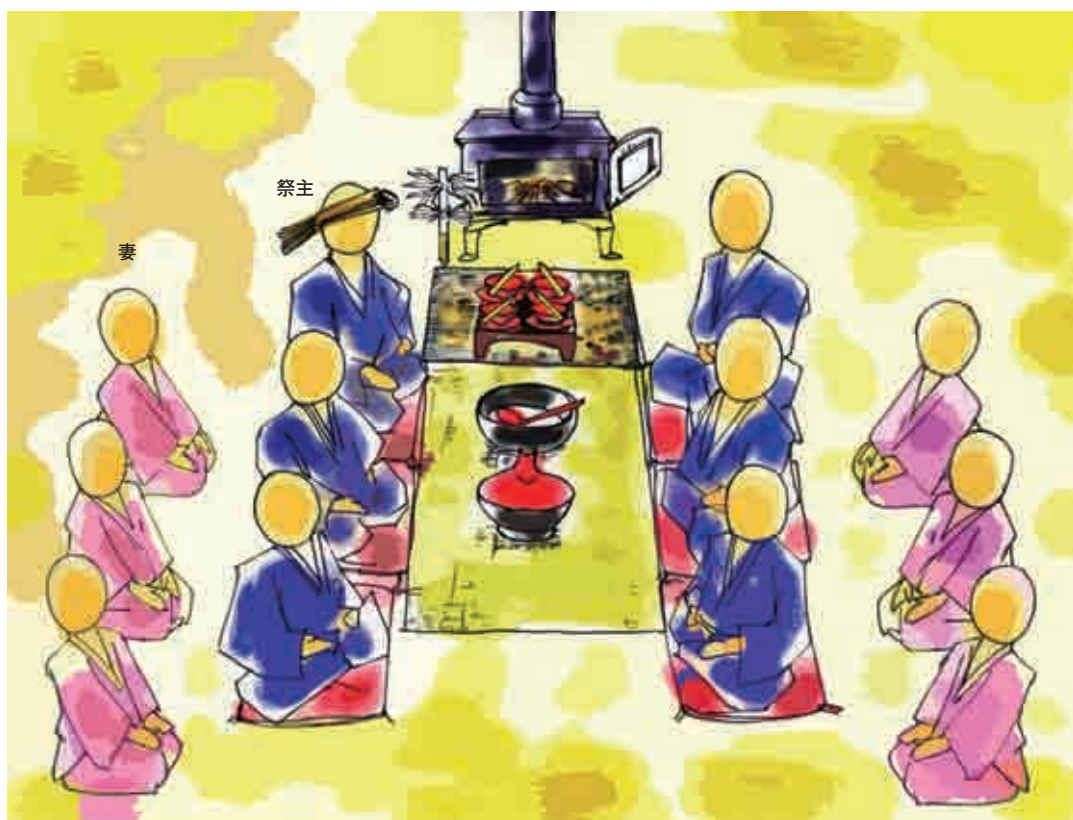
チセ

写真16

チセの中では、ストーブをアペオイ（炉）にみたてて儀礼を行います。



写真17



Ⅳ 供物・用具

供物

貝澤家で用意した伝統的な料理です。



かぼちゃのラタシケフ (かぼちゃの混ぜ煮) 写真18
シブシケフメシ (イナキビご飯)
チタタフ (サケの氷頭をたたいたヌタ)
ユッオハウ (鹿肉の汁物)



ブタのチタタフ 写真19
コサヨ (マメとイナキビの粉粥)



チマチュエ (焼いたサケ) 写真20

米や麴、シラリ、刻みタバコ、アチャシトを用意します。タバコは必ず用意します。



米、麴、シラリ、刻みタバコ 写真21



アチャシト 写真22

お菓子や果物も用意します。



お菓子、果物

写真23

用具

儀礼に用いる主な用具です。



トッキ(杯)とイクバシ(捧酒箸)

写真24



エトヌブ(片口)

写真25



パッチ(鉢)・ピサク(ひしゃく)

写真26



シントコ(行器)

写真27

V カムイノミ

参列者が着座し、儀礼がはじまります。祭主の妻がシントコからトノト（酒）をエトウヌブにうつします。



写真28

この時妻はトノトの出来栄を披露します。これをシントコカラカラといいます。



写真29

ピサックで時計回りに1回かき混ぜてエトウヌブに注ぎます。これを3回繰り返します。

3回注いだ後、トノトを一度シントコにもどし、再びかき混ぜてエトウヌブに注いでいきます。

これは「お酒をたくさん用意しましたよ」という意味を込めて、出来栄を見てもらうために行います。



写真30

妻はサケイヨシクルというトノトを注ぐ人にエト
ウヌブを渡します。トノトはサケイヨシクルを介し
て注がれていきます。

サケイヨシクルはパッチにトノトをうつします。



写真31

祭主は、シンヌラツパが無事行われるよう見守っ
てもらうためのイナウを立てます。



写真32

男性は、トノト、アペフチカムイにオンカミをし
ます。



写真33

サケイヨシクルは祭主からトウキを受け取り、トノトを注ぎます。



写真34

祭主はオンカミをし、トノトが注がれたトウキを受け取り、イナウ、そしてアペフチカムイに捧げながら、カムイノミを行います。



写真35

アペフチカムイへの祈りことば

イレスカムイ モシリコルチ
チランケピト
オリパク トウラ ネワネ コロカ
シンリッ プリ ウネロックス
アパセ ケウトウム コトウキアニ
コパスイスイエ クキ シリ ネ
トウキタサ パスイタサ チコホサリ ワ
ウンコレ ヤン

タネ アナクネ シサムプリ アエイカウヌ
ネヒオロタ アイェ ワ ピリカプ
アイヌイタク ネ ア コロカ
アパンテ ルウェ ネ ロク コロカ
ネユンポカ アイヌプリ チキルスイ

クス タパンペ ネノ アパセ ケウトウム

人間を育てる神 国土を司る神
火の神様、
遠慮とともにではありますが
先祖の風習であったので
尊い御心に私は杯を捧げ
捧酒箸を向けるのです
杯の方へ捧酒箸の方へ顔を向けて
くださいませ

今はもう和人の風習を多く真似させられ
長い間私共が用いていた
アイヌ語であったけれども
すっかり薄められてしまったけれど
なんとかしてアイヌの風習を
私共は行いたいのです
そこでこのように尊い御心を

チコモソソ ホシキ トウキ
トノト ピリカブ カムイ ケウトウム
クコオンカミヅ ネ ルウエ ネ ナ

チヤイコルシカ ワ アイヌ ウタラ
ウタラ オピッタ エプンキネ ワ
ウンコレ ヤン
テエタ クル ネノ ネピタキ
クイエ エニタン ペ ソモ ネ コロカ
ヘル クワンノ アパセ ケウトウモロ
クコオンカミヅ ネ ルウエ ネ ナ
コンカミ ナー

目覚めさせ 最初の杯
おいしいお神酒を 位の高い神に
私は差し上げているのです

この杯をお受け取りくださり アイヌたち
人々全部を お守りくださるよう
お願い申し上げます
先祖たちのように アイヌ語を
上手に 言うことが できないけれども
ごく簡単に 尊い神へ
私はお祈り申し上げます
私は礼拝いたします。

(萱野茂「カムイノミの言葉、火の神へのお祈り」『アコロイタツ』
北海道ウタリ協会 1994年 p.108~109)
注) なお、転載にあたって「ト°」を「トウ」と表記した。

カムイノミの後、祭主はトノトをいただきます。続いて、トウキとイクパスイは身内の年配者に渡され、参列者に順に渡されます。



写真36



写真37

続いて、ワッカウシカムイ（水の神）、ヌサコロカムイ（祭壇の神）へのカムイノミを行います。
ワッカウシカムイは参列者の中で一番年長の男性が、ヌサコロカムイは身内の男性がそれぞれ行います。

年長の男性はその場で、ワッカウシカムイに日々水を与えてくれていることの感謝をこめてカムイノミを行います。



写真38

身内の男性は、イナウチパの見える場所でカムイノミを行います。



写真39

次に、祭主はアペフチカムイにトノトを捧げながら自分の先祖の名を告げ、トノトや供物を無事に届けてくれるようカムイノミを行います。



写真40

先祖へ供物を送ることば

イレスカムイ モシリコルチ
オリパク トウラ ネワネ コロカ
タパン ヌラツパ タパン イチャラバ
タパン トウキ オソンココテ ワ
ウンコレ ヤン

カムイモシッタ カムイ ネ アン クル
クコロ シンリッ レコロ カトウ
〇〇〇 ネ ルウエ ネ ナ
アットムサマ チトウキウクテ プ
ネ ルウエ タパン
アイヌ オッタ トウキ アニ
オンカミアン ヤッカ カムイモシッタ
シレパ ヤクン イヨノコンカ
ヌマッコエウン シレパ ナンコロ
ネブ ハル オッタ ネワネ ヤッカ
ニヌム ヘネ タンパク ヘネ
ネア ヤッカ ポロ シケ ネ
ポロ ヤロ ネ シレパ ナンコロ
カムイモシッタ エネ アン クニ
トウキ ウク ニシパ ノラムウタラ
アシケアニ ワ ピリカイクソ
ピリカマラプト エオマ クニ プ
ネ ルウエ タパン ナ
エネ ネ ヤクネ チホツパシンリッ
ピカン オカ タ アウタリ ウタラ
インネ ワ シラン ネイタパクノ
アイヌ イキリ ニシパ サンテッ
シピラサ ワ トウクノクニ アシノクニ
カムイモシリ ワノ チコプンキネ
アエカラカラ クニブ ネ ルウエ ネ ナ
セコラン ヤクネ イレスカムイ
エヤイカムイネレ クニ プ ネ ルウエ
タパン ナ

エエパキタ イレスカムイ
アカムイトウンチマツ インネ ワ シラン
イキットウム タ ラメトコッタ
パワシヌ オロケ ケマスッカシ
チノサラマ アエカラカラ ヒケ

火の神様 国土を司る神
遠慮とともにではあるけれど
これらの食べ物 この供物
この杯に ことばを添えて
くださいませ

神の国で 神になった人
私の先祖 その名前は
〇〇〇という人です
その人へ私はこの供物を送りたい
と思うのです
アイヌのところで杯に
一杯だけ送っても神の国へ
着いたならば 大きな酒樽に
あふれるほどに増えて届くはず
穀物やその他の食べ物
果物やたばこなど
たくさんの供物が 大きな荷物
大きなかますに詰まって 着くでしょう
神の国でどうなるかといえば
杯を受け取った人が最も親しい者を
招待し 素晴らしい酒宴が
大宴会が開かれることに
なっています
そうすることによって神の国へ帰った
先祖たちのあとで暮らしている
私ども大勢の仲間が いつまでも
アイヌの血統 絶えることなく
繁栄する そして幸せに暮らせるように
神の国から 守って
くださることと思います
そうなれば 火の神自身も
神として尊敬されることに
なるのです

その次に 火の神には
大勢の召使いがおられます
その中で 度胸も
雄弁も足の速さも
兼ね備えた者を

アエウテッカラ タブ クイエ ヒ ネノ
タパン トウキ アエブ ピリカ ヒ
シンリッ コタヌン シレパ クニ
アエサンニヨ ワ ウンコレ ヤン
イレスカムイ パセカムイ
コンカミ ナ

使いに出し 今 私が申した通り
この杯とこの供物を
先祖の村に届けて
くださるようお願い申し上げます
火の神さま 尊い神に
私は礼拝いたします

(萱野茂「カムイノミの言葉、先祖へ供物を送ることば」
『アコロイタッ』北海道ウタリ協会 1994年 p.110~113)

供物をアペフチカムイに捧げる

祭主は供物をちぎってアペフチカムイへ捧げます。「ちぎる」ことでものの魂がとかれ供物が届くのだ、といえます。



写真41

供物を運ぶ

アペフチカムイへ供物を捧げたあと、先祖への供養を行います。
供物をイノウチパに運びます。貝澤家では女性が供物を運びます。



写真42

チセを出てイノウチパに向かう時は、必ず北回りでいきます。女性のほか、男性では祭主か副祭主が参加します。他の男性はアペフチカムイとともにチセに残ります。

チャルパ

祭主はイノウチパに向かってオンカミしたあと、イノウをたて、トノトとシラリを捧げます。



写真43

祭主は米と麴、タバコをチャルパします。トノトを捧げ、自分もいただきます。



写真44

祭主はチセにもどります。

妻がトノトを捧げながら、先祖に対しカムイノミを行い、供物をチャルパします。チャルパした食べ物は、先祖とともにわかちあうことから、自分もいただきます。

他の女性たちも先祖に近況を報告しながらチャルパします。



写真45



写真46

イナウをアペフチカムイに納める

女性たちが家にもどると、終了のカムイノミを行います。男性がアペフチカムイ、トノトヘオンカミをします。



写真47

最初に祭主がトゥキとイクパスイを持ち、アペフチカムイにイクパスイでトノトを捧げながら、無事終了したことへの感謝とイナウを納めることを伝えます。

イナウエタイエ（イナウを納めるときの祈りことば）

タネアナッネ
イナウカムイ
アエトッキピシテ
イレスカムイ
コロトノト
ネアクスタブネ
コラムシンネ
チキクスタブタブ
タパンイナウ
カムイフチ
アコレシリ
ネヒタパンナ
オンカミアシナー

今はもう
イナウを受け取る神
それぞれに杯をあげた
火の神の
お酒で
あったので
私どもは
すっかり安心し
このイナウを
火の神に
差し上げる
のであります
私どもは礼拝します

（萱野茂『アイヌの神作りと送り 五つの心臓を持った神』
小峰書店 2003年 p.214～215）

祭主のカムイノミが終わると、トゥキとパスイが身内の年長者に渡され、チッカをしトノトをいただきます。順に参列者もトノトをいただきます。



写真48



写真49

祭主はイナウをアペフチカムイのもとに納めます。
最後に、参列者全員がアペフチカムイ、使用した用具にオンカミします。

Ⅵ 後片づけ

若い男性が使用した用具を片づけます。トッキ、エトヌブ、チタラペと片づけていきます。用具の片づけにより、シンヌラッパの儀礼は終了します。



写真50



写真51

貝澤家のイノウチパは、耕一さんのお父さんが亡くなられてから、先祖供養のために作られました。

毎年、親戚一同が集まるお正月などに先祖供養を行っています。



写真52

イチャルパ【新ひだか】

葛野次雄家

平成17年11月19日

I 概 略

本編は、平成17年11月19日、新ひだか町の葛野次雄さん宅で行われたイチャルパ（先祖供養）を記録したものです。



写真 1

Ⅱ 準 備

サケヌンパ（酒漉し）

儀礼の前日にサケヌンパ（酒漉し）が行われます。樽に入ったアンカルペ（どぶろく）をザルにあけながら漉していきます。



写真2



写真3

ザルにシラリが残ります。
シラリは別な容器にとりわけます。



写真4

シラリが付いたザルは洗わずに玄関先にもっていき、付着したシラリを飛び散らすようにして落とします。

これはアパチャウンカムイ（出入り口の神）にシラリを捧げるためです。



写真5

漉したアンカルベはシントコに入れて一晩寝かせます。



写真6

おいしいトノトになるようにという願いと、魔が入り込まないようにするため、サケイナウを置きます。



写真7



写真8

イナウケ（イナウ作り）

儀礼の当日、アペフチカムイやヌササン（祭壇）に立てるイナウを作ります。

材料はヤナギです。



写真9

木の根元を手前にして、木の目を逆に削ったイナウです。新ひだか地域ではストゥイナウとい
います。



写真10

作ったイナウをアペオイ（炉）に立てます。アペフチカムイのイナウです。



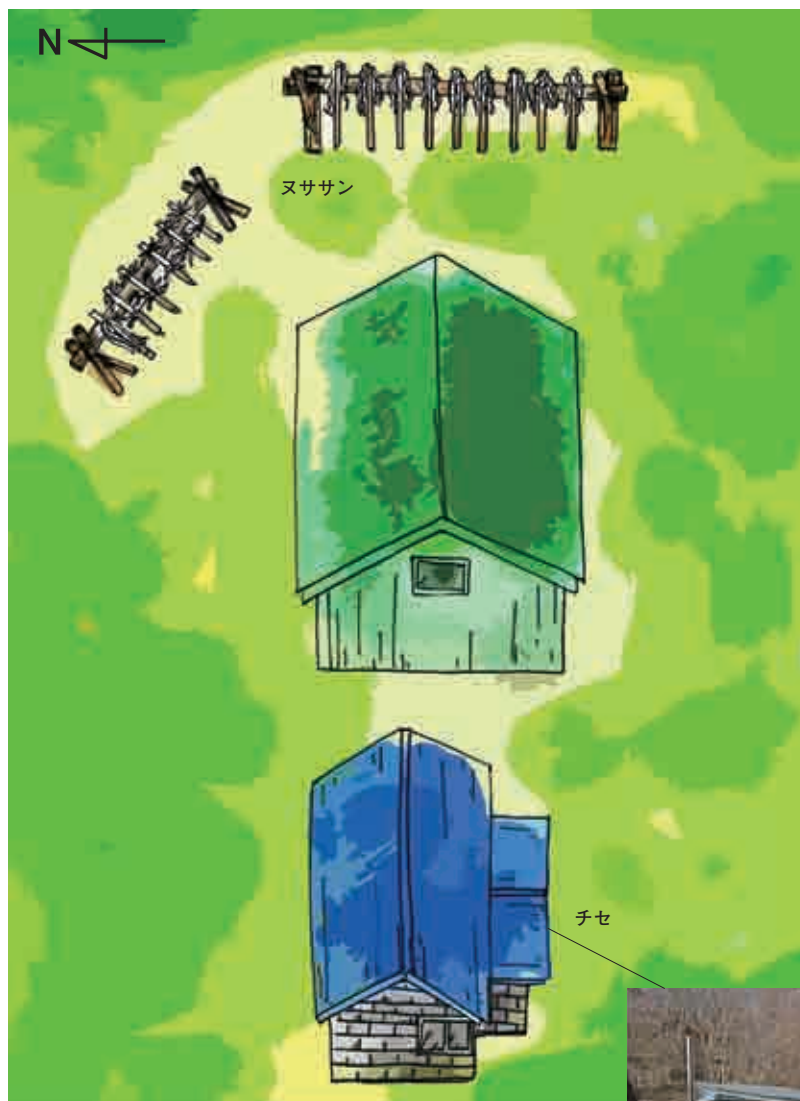
写真11



写真12

Ⅲ チセ（家）とヌササン（祭壇）

葛野さん宅の裏にある別宅をチセに見立てて儀礼が行われました。
自宅敷地内の東側にヌササンが設けられました。



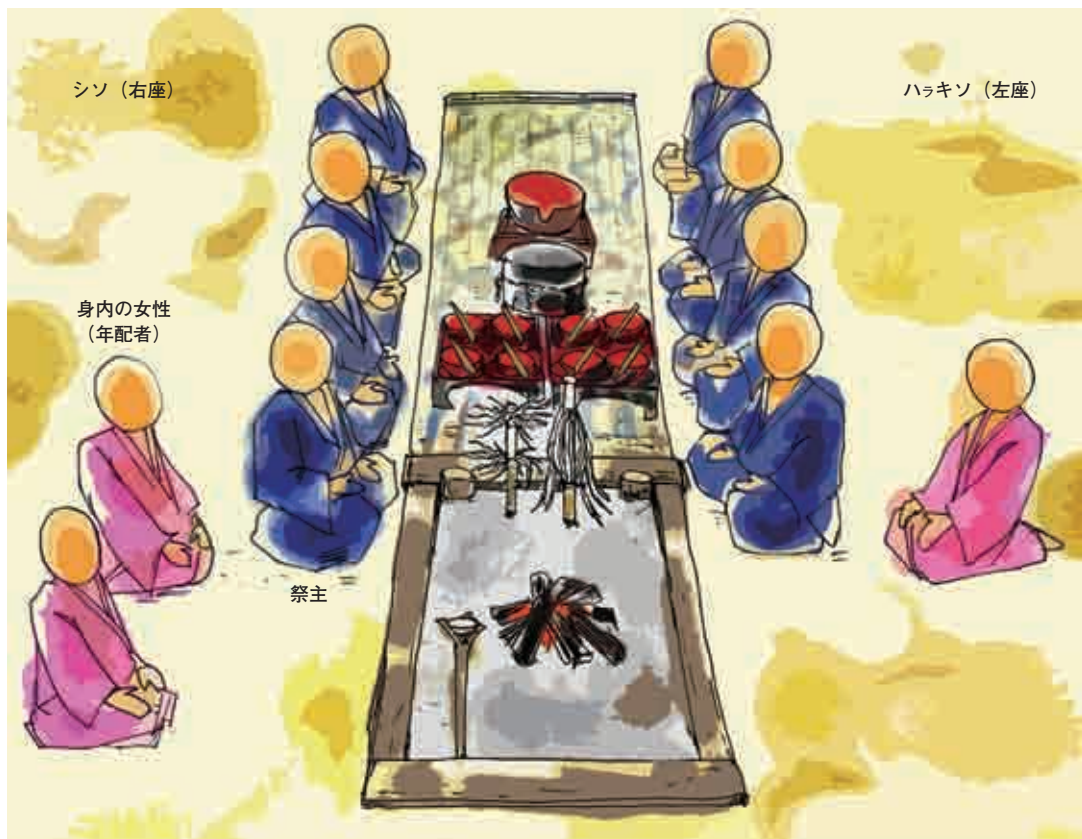
チセ

写真13

儀礼の際の着座位置です。祭主はロルンプヤラ（神窓）に向かって左側のシソ（右座）に座ります。

祭主の右となりのやや後ろには身内の女性で年配者が座ります。

ロルンプヤラ（神窓）



Ⅳ 供物・用具

ロルンプヤラからアペオイに向かってチタラペ（文様入りのゴザ）を敷き、供物や用具をならべます。トゥキとイクパスイはオッチケ（膳）にのせてアペエトク（上座）に置きます。



写真14

供物

シトは必ず用意します。



写真15

伝統的な料理です。



チタラペ・チポロント

写真16



煮物・カムイチェプルル・コンブシト・ラタケツ・イナキビご飯

写真17

現代のものとしてお菓子や果物を用意します。



お菓子

写真18



果物

写真19

刻みタバコ、葉タバコ、シケレペキナ（ヒメザゼンソウ）、ピットク（オオハナウド）、サツチエブ（干し鮭—特に尾やヒレの部分）、ヒエ、これらは魔よけとして使われます。



写真20

用具

トッキとイクパスイは4組を1つのオッチケにのせます。



写真21

トノトの入ったシントコです。



写真22

エトゥヌブ（片口）とピサック（ひしゃく）です。
ピサックは今回新たに作りました。



写真23

ヌササンに立てるイナウはオッチケにのせます。



写真24

V カムイノミ

参列者はアペフチカムイ、ヌササン、トウキとイクバスイの順でオンカミをします。



写真25

男性の若者がシントコにオンカミをしてトノトの準備をします。



写真26

イヨマレ（酒を注ぐ）をするため、シントコからトノトをエトゥヌブにうつします。イヨマレは年配の女性が行います。



写真27

祭主はシラリをイナウに捧げます。



写真28

女性はロルンプヤラに向かって右回りで祭主の左側についてイヨマレします。

祭主は左手にもったトゥキでトノトを受けます。



写真29

アペフチカムイへの祈りことば

シノー リ カント モシロル オローワ
アランケ キーロッパ カムイ
イレス オイナ フチ
カムイ ナンコウツチャ サーモロ
アーサラレ キワー
シフシコトイ オローワノー
テエータ エーカシ ウーカウルカルロッパ
シーオイナネ イーナウ
カムイ キレトツカシ アコ アシ アンキーワー
シンリッ ネーロッパ エカシ ウタリ
ウポロセロキツ
タパン シオイナ ラークンモシロル アコ
ホウツパ キーロッパ イタウツ イポーロセ
アポロセー キワ ネヤークン
アポロセ キ イタウツ
エイウンーピイッカ コイサウムノポー
エイ エーソコロ キワー ウンコレ キーイヤーン。

天空高き天界より
お降りになられましたる神
育てはぐくむ祖母
神様の御面前を
あけ開かせまして
太古の昔の時代より
昔の祖父が 御造りになられた
聖なる偉き御幣を
神様の御面前上に 御立て致しまして
御先祖であります 祖父様方が
唱えまして
この聖なる下界へ
残されましたる 唱え言葉を
お唱え致しますなら
お唱え致す言葉を
疑うこともなさらずに
御信じなさって下さいませ。

ヘンパラ パー タ ヘンパラ トー タ
オリパウツ アンキークワ
ウタリ コークシシーノ ヤイカタヌ ケーウツウム
アヤイコロパレ キー カネ
ホーラルパー アニー ネヤッカ
タナンパー マーシキン エイアン オリパウツ
ホカンパ キーアヤッカ
ターネ アーナーツネ タパン アウツネパー
ウアウツパ シカウツパ カールパ
ウーキイツ ネアクス
オッカヨ マータイノ シネークウル ネーノ
ケーシペキ ソーウッキ
ハルー ソーウッキ コ
エーイテーツネー アニ ネーヤッカ
ウーネウツ オチャコツ
ウーネウツ ワーイル コ アラリイサムノーポ
ウーピリカ モーンライケー エーイカンクルカシ
ヌブル ウンキ クニネノー
ラマウツ ウンキー クニーネノ
シーノパーセ カムイ
シーオイナ フチカムイ アコ
イタウツ リキンテー アニー ターパンナー。

ターパニー アンテツ
カムイ カルロッパ
シーオイナネー トイ オシケ エン
ハル オイナ ピーエ アーコエートイタ
アンキワ ネーヤクン
リーコマールカムイ ウーミーローツア
サーランベ コソソテ チンキ コール
セセツ ポウツケ マウー
カムイ カールローツア
シーオイナ ラークンモシロル オローパーウツノ
コオラン キアクス
ハール オーイーナマツ カムイ オーイーナマツ
スクーパシヌ キーノ ウーツウツノキロッパクス
ウーホンポーツコンナ コトウツナターラーキコンノ
ウアシイッキ オロ エーイパーキコンノ
イウツルオツ ツンチネキー
サワウケ レラ
シヤン ピリカ シンチーネ ウーキーアークスー
ハル モイレマツ
ヘテス キー カネ ヘボキ ツラノ
ウーピリカ タウツカル

いつの年(か)に いつの日(か)に
天変地変がありまして
同族共々 慎む心を
自ら持たせましながら
暮らしまするけれども
今年ほど 有りし天変地変が
難しい事であったけれど
今は この春の
始めとなりました
事なので
男 女 御一同にて
緑はぐくむ床
穀物の床に
働きまして
何らの心配
何らのまぢがいも御座なく
完全な働き その致しまする形に
威力が入ります様に
御霊が入ります様に
尊く重き 神
聖なる女神様へ
申し上げ致しまする。

これまでにて
神が造られました
聖なる土の中へ
穀物の聖なる種子を御時きつけ
致しますなら
太陽神が着られし
絹衣の裾の
熱く あったかいぬくみが、
神が造られし
聖なる下界まで
降りて来ましたので
穀物の女神様 神なる女神様が
たくましく 成長致しましたので
幼穂形成期となりますなら
出穂致す時期になりますなら
仲をとりもち 媒酌なさる
さわやかな風が
誠に良い媒酌をなさいましたので
穀物の女神が
身をそり返しなさりながら かがみながら
美しい踏舞

リウムセ ウキ オーロタ
ウーポボ シーノウッチャ
エイー クウウンケ ウーキーカーネー
アウルタウツクウルカ エウエーシキル
ウーピリカ ウエラウス ウーキーロッパクス
ハル ラモール オシケ コーラマウツ オーマ
コーイーペー オマ ウキロッパクス
ウーモシカル ソッキ
コーモシカルトロッキワ
シーホシキルイノ モシイリ コル
シオイナ カムイフチ オレン アコ イーブーニ

ネイ トウツセター
アーエイヌ コル サンリリケセ
アーエレーキーワ レス
スクパシーヌノ オーウレウスキーワー ネヤクン
カムイ オルスベ
アエイヌ オールスベ
アエ ハーノウッカ
アーエー パーカシヌ アンキワー ネヤクン
イオイラコー イーサウムノ
ウースラコ イサウムノボ
ウーサ ラケライ コイサウムノボ
シホシキ アウツパータ アーノミ キロッパ
シーオイナネー シロルタ エイロツロッキー
シーノアパセレー キ
シーオイナネ カムイ ウタリ オレン
アーコ イナウ エーブーニ アンキー カーネー
イナウコロ シロマーアーシコロ
ツキ カウツケーマツ
エイカンパスイ コンナ モウムナタラキノ

シオイナ カムイ ウタリ オレン
アーコー イブニキ ツーラーノ
リキンテ アンキワ ネーヤクン
アーリキンテ キロッパ
イーナウコロ アーシコロ イーコカンベカキワ
カムイ コル シテコロカシ
コオシシヌカー キーワー ウンコレーキーヤン

ヘンバラ パータ パ ウツマシ キーワー
ツウツ ウツマツ キアーヤッカ
ターナンパ マーシーキン
オリパウツ カムイ クロリ

舞いをなさいました時
遊び唄を
歌いながら
肩をならべて 舞いまわり
美しきたわむれをなさいましたので
穀物の御心の中へ魂が入り
実りが入りましたので
刈り取った 穀物を
敷きならべて乾燥致して
最も一番始めに 国土を領する
聖なる女神様(火の神、不動明王)へ
御捧げして

その後で
人々の子孫に
食べさせて 育て
たくましく 成長致しましたならば
神様の話
人間の話
彼らに学ばせ
彼らに教えましたならば
忘れる事もなく
失う事もなく
又 滅ぶこともなく
一番最初に 御祭り致しまする
聖なる自然に 御鎮座ましまする
尊重致しまする
聖なる神様方へ
御幣を差し上げましながら
御幣付き 御神酒を
盃の女神様の
捧酒箸を渡した御神酒が
溢れて流れ出す様に
聖なる神様方へ
御あげ致しますと共に
捧げましたなら
お捧げ致しましたる
御幣付きお神酒 御受け取りなされて
神様の腕の上に
納受なさって下さいませ。

いつの年かに 年の不安定
月の不安定になりましても
今年ほど
天変地変の神の雲影が

ホーカンバ キーアクス
 ウータリ コクシーシノ
 アエー ヤイカタヌ アンキ ツーラーノー
 ターパン ピンネー パ アエー シラッカリレー
 アーエーオーボソ ウーキロッパワー
 タネ アナツネ タパン パイカル アウツパ
 シカウツパ カウルパ ウーキロッパークースー
 オウツカヨ マタイノ シーネインキネーノ
 ケシペキ ソツキ ハールー ソウツキ
 コーエイテツネウーキー オーロター
 ウーネウツ オチャコツ
 ワイルネヒネヤッカ コーアラリーイサウムノ
 ウーピリカノ モンライケ キ
 エーイカン クールカシ
 ヌブル ウンキノ ラマウツ ウンキーノ
 コエーイテツネ キワ ネーヤクン
 リーコマ カームイ コル シノオイナ レーヘ
 ウーピンネアイー ハシナウコル オイナマツ

 ウミーロッパ シオイナネ サランペ コーソソテ
 チンキ セセツ ボウツケ マエ
 シオイナネ カムイ
 ヌブル クウル ウカルカールロッキーフ
 アエーイヌ ウタリ アエ カシヌカルキア
 タアン シオイナネ ラクン モシロル オローパウツノ
 アコ ランケ キロッパクス
 ハール オイーナマツ カムイ オイーナーマツ
 スークパシヌ キーツラノ
 ウツウツノ キーロッパクス
 カムイ オーレン アコヘポキ アンキ ツーラノ
 ヤイライケ アンキ
 イポロセ イタウツ アンリキンテ キ
 ハエ ネルエ ターパンナー。

カツレンカイネ オカイベ ネクス
 ヤーウン クウル アエイヌ
 レープン イソネ チヨキ
 トモウツ カシヌカル キークス
 ウチイッカウツケマツ カムイ ウツソロ オシケ
 エイヌプールのキーノ
 レブン シアツイソカシ コ レブンキワ
 レブン イソーネ チヨキ
 カムイ コールロッパ ア
 シーノオイナネ チヨキ トモウツカシヌカルキーフ

難しい事なので
 同族と共々
 我らは慎みますと共に
 この男子の（冬）年を通り過ごさせ
 通過致しましたなら
 今はこの春の始めに
 になりました事なので
 男も女も共々
 緑はぐくむ床 穀物の床
 で働きます時に
 何の失敗や
 まちがいのもなく
 完全な働きをします
 その姿 形に
 偉力が入り 霊力が入ると共に
 働きを致しますならば
 太陽神の聖なる名前（その名も）
 天下を照らす大御神様が
 （牡の矢の枝幣を持つ）
 お召しになる 聖なる絹衣の
 裾のあつい あったかいぬくもりを
 聖なる神、
 お偉いお方が お造りになられまして
 人間達へ与え授けました
 この聖なる下界までも
 御降りになられましたので
 穀物の聖なる女神様が
 たくましさと共に
 大きく育ちましたので
 神様へ御感謝致すと共に
 御礼いたします
 お唱え言葉を捧げます
 声なのであります。

事によってあるものなので
 丘に住む人々が
 沖の漁場の幸を
 与え授けてもらうために
 船神様のふところの中に
 偉力を保って
 沖の大海原の上いらっしゃって
 沖の漁場の幸、
 神の領されまする
 聖なる尊い幸を授け与えてもらったなら

ウーチイッカウツケマツ
ウーピリカ シーケネ エーイ
エシーケーコル キワ ネヤクン
ウチイッ オ キロツア ウーペウレ オッカヨ
カーヤニ アーシ カーヤエタエ リキンテ
カヤ ホウン ポウツコンナ
サーワウケ レーラ エーイエ トウツナタラキノ
ウリイリ ウーツル
カイペ ウーツル
カイカイ ウーツル
チイッカウツケマツ カーヤ エイー ホユブ
カーヤ エイ チヤシテ ウーキ オロタ
チイッ パウツテ キ オッカヨ
ウーピリカノ チパツテ ウーキー カーネ
ヤウンクウル トマリ ウーホンケシ コー
オヤン キワ ネーヤクン
ソーケシネ カーウツケマツ
ヤイレエンカキー カネ
レープン イソネ チヨキ エーイカンツスマッキーノ
シーホシキアウツパタ モシロル コル フチーカムイ
アコー イプニ アンキワー ネヤクン
ネイー トウツケセタ ウーアエイヌ サンリリケシ
アエーレキノ アーレス キワ オウレウスキ ヤクン
カムイ アエイヌ オルスベ
アーエ ハノウッカ アンキワー ネヤクン
オーホロマニユウ パウツノ
カムイ コ シウツ シカタヌ
ウーオイラ コイーサウムノ
ウースラ ラケライ キイカ コーイサウムノーポ
カムイ コー ヘポキー エーイ
エアシカイキー ナンーコロナー。

ターパニー イーマカーケーター
ロルーンソー カーシ アーロツテ カムイ
アコ ウーコーイタウツ
リキンテ アンキワ ネヤクン
シーチセ オシケ オロタ
ウーネウツ チヤコアツ コーアーラリイサウムノ
ウピリカ スクウツ ホーラリ アンキー クーニネ
カムイ オーレン アコ ニンコロ ニスウツ アンキ
ハエ ネルユ タパンナー。

ネイ ツタヌ チーセ ペーンノウッカ
チーセ ペーンノウッカ ウーアンパー

船魂様の
良い荷として
背荷わせますならば
舟に乗りましたる若人は
帆柱を立て 帆を引きあげて
帆腹の下っ腹を
さわやかな風で ふくらませながら
うねりの合い間
白波の合い間
さざ波の合い間を
舟霊様の帆にて走り
帆にて走りますときに
舟頭をする男子が
完全に舟頭をしながら
丘の港の腹中へ
入りましたなら
女房である奥さんは
喜びながら
沖の漁場の幸を出迎えて
一番最初に 国土を領する女神様へ
御捧げましたなら
その次に 人間の子孫に
食べさせ 育てて 一人前になったら
神や 人間の話を
彼らに教えましたならば
永遠永久に
神様への装いや催し事を
忘れる事もなく
失い滅びる事も 御座なく
神様へ感謝する事が
出来るであります。

その次に
上座の上に 鎮座なさる 神様へ
御言葉を
捧げますなら
我家内の中に
何の心配事もなく
完全な生活 暮らしをします様に
神様へ御念願致します
声なのであります。

その次に 家の東棟と
家の西棟を司る

カムイ オレン
アコ イターウツ
カルパーレ アンキワー ネーヤクン
シーリーベケリー クンネ
ポオン イルカイ シーニ キイカ
コーイサーウムノーポ
アーエイヌ クウル カーシケ コシコーオマレキノ
エプーンキネ キロツアイ
シヤンノー カムイ オレン
アコ ヘポキ アンキロッパイ
アーポロセ キー ハエ ネールエ ターパンナー。

ネーイ ツータヌ
アパラウルカシ ウーアンパー カームイ
アーパラウルケ クウル
アーパラウルケマツ オレン
アーコ イタウツ
リキンテ アンキワー ネーヤクン
シーチセ ウン コーリシ ウタリ
ウーサ ルウツネ クウル ネヒネ ヤッカ
ソエンパー ツーイカタ アフン ツイカタ
タブウツ ソーカーシー コー シコオマレキワー
セーミンキアン カウツチャッペ
エーイオコウツ キーワー ネーヤクン
カムイ コルロックア シーオイナ タクサー アリ
アエー フウツサ エーチュウ アンキー クーニネノ
サンニヨーキーワ ウンコレーキーヤン。

ソーユン ミンタルーカシ ウーアンパ カームイ
ソーユン ミンタルー カシ
シーチセ ウン コリシ
ウーサ ウーソユン コリシ ウタリ
シノウツ キ オロタ ネヤッカ
シノウツ キ クウル カシ
オインカルキーワ ウンコレーキーヤン。

ターパニ パウツノ
イタウツ カルパレ アンキワ
ネーイ ツータヌ
ウルツイーカシ アコー
イターウツ コーテ アンキワー ネヤクン
アーコロッパ ウタリ
オーツカヨー マタイノ

神様へ
御言葉を
作造いたしますなら
昼も 夜も
ほんの一寸休みます事も
御座なく
人々の身の上を見守りなされて
番をなさいましたのを
誠に神様へ
御感謝致します事を
お唱え致します声なのであります。

その次に
出入口を見守る神
出入口のお方
出入口の女神へ
御言葉を
お捧げ致しますなら
我家の子供達
又は 大人達も
出る時も 入る時も
肩の上に目を入れてみて (見守っていて)
いかがわしき悪いものが
ひっかかりましたならば
神様が領されます 偉力ある手草にて
(悪いものを) 追い祓う息吹を
お当てなさいます様に
おはからいなさって下さいませ。

外の庭の上を 見守る神様は
外の庭の上に
我家の子供
又は 隣近所の子供達が
遊びます時も
遊んでいます身体の上を
お見守りなさって下さいませ。

これまで
言葉を作りましてから
その次に
道路の上へ
言葉を添えますなら
私共の同族
男女の

ウーオヤウツ コイサウムノボ
ウークウルカシケ オーインカル キーワ
イコレーキーヤン。

ウール ツイーカシ カツレンーカイーネー
カーリイッチヤシテレ ウーキアーヤッカ
ウートメエチユウ ネヤッカ コーイサウムノーボ
ウール ツイカシ
ウーピリカノアン カーリイッ
チャシテレー アンキワ ネヤクン
カムイ コ ヘポーキ キ ツラノ
ヤーイコ
ヘポーキ キーイッ ネールエー ターパンナー。

ネークースー
カムイ コールロツァ シーオイナ ヌプルツーム
アハンケニナンケーレ キ ツーラノ
カムイ コー ヘポーキ ヤヤッタサ
ヤイライケー アンキ
ハエ ネールエー タパンナー。

シーフシコトイ オロワノ
カムイツタヌ ワノ
シーオイナ エーカシ ネロツァー
シンリーツ ウータリ
オツルウム コテ カネ ポロセ ローツァ
シオイナネー イタウツ イポロセ ラーマウツ
ウーオイナネレ キワ イーコレーキヤン。
ネヤクン
カムイ ペーンチョロカ
イタウツ ペーンチョロカ シーネペンチョロネノ
ウーチョロコーバシテ
ウーチョロコーノエ アンキワー ネヤクン
ウーダシパーノー ウーサウムオウペカレ
ウーエオシコル キイッ ネールエー ターパンナー。

カムーイ オカイロツァクス
アエイヌ ネーヤツカー スークウツ キ エイ
アシカイ キイッ ネールエー ターパンナー。

アエイヌ オカイロツァクス
カムイ ネーヤツカ
アーリイッレロツテ キーイッ
ネールエー ターパンナー。

わけへだてもなく
御身体の上をお見守りなさって
くださいませ。

道路の上を 事によっては
車輪を走らせましても
正面衝突もなく
道路の上で
完全に車輪を
お走らせなさいましたならば
神様に感謝しますと共に
自分にも
感謝するものなのであります。

でありますから
神が領されます 聖なる偉力を
近くに引き寄せますと共に
神に感謝 謝礼し
有り難く思いまする
声なのであります。

太古の昔より
神代の時代より
聖なる祖先であります
御祖先様方が
力説を添えながら唱えましたる
聖なる唱えの言葉の霊を
尊重なされましてくださいませ。
であるならば
神様の真実と
言葉の真実が 一体となって
励まし合い
支え合いましたならば
お互いさまに支え合い
互いに頼り合えまするのであります。

神様が居られますので
人間も生活する事が
出来まするものなのであります。

人間が居りますので
神様も
あがめたてまつられまするもの
なのであります。

カムイー ネーワ ウーアエイヌ ウタリ
イーサウム キワ ネーヤクン
ラクンモシロル ネーヤッカ
ウサ ヌタウツァー ネーヤッカ
エーリコオマ キイッ ソーモ ネルエー ネーナー。

シノオーホロマニユ パウツノ
カームイ カール キワ
アーエイヌ ウタリ オレン
アコ カシヌカル キロッパ
シーオイナネ ラクン モシロル タ
ウコ ヌベウツネ アンキ カネ
ウーオヤウツコ イサウムノ
シーオイナ ラクンモシロル カーシケタ
スクウツ ホーラリ アンキー イタ
ウーネウツ ヤーイキレ イララー
シロウル コー アウツァ
アーヨロコアウツァ ネーヤッカ
コーイサウムノーポー
スクウツ ホーラリ アンキー クシキロッパイ
カームイ コ ムウツケ ラム アコルキー カーネー
スクウツ ホーラリ アンキワ ネーヤクン
シンリツネー ロッア エーカシ ウターリ
コーペウツァ キーロッパ
カームイ アエイヌ コル オルスペ
オホロマニユネーノ
オイラコ スラ ラーケライキー コーイサウムノボ
ペウレ オッカヨ ウタリ オレン
アエー ハーノウツァ キー ツラーノ
アエー ウパーシクマ アンキワ ネーヤクン
シーホシキールイノ カームイ ウターリ
アーリッレロツテ アーンキイッ
ネールエ タバンナー。

アーウコ コル ロッア
ヤーウンクウル モーシロル
オーカンナツキータ ホーラルパ キーワ
オーカイロッパ アエイヌ ウターリ
シーネークールネーノ
オナコルロッパ クウル ネヤクン
オーナ カーシオイキ
ソケーシコルロツ クウル ネヤクン
ソケシ ツラーノ
ウーラウムケシ カチユウ キーカネ

神様と 人間達が
居ないならば
世界も
又 国土も
発展するものではありません。

永遠永久に至るまで
神がお造りになられて
人間達へ
お授けなさいましたる
聖なる下界に
お互いにおし合いながら
わけへだけでもなく
聖なる下界の上に
生活 暮らしまする時に
何の気ままやいたずら、
自然を汚染することも
宇宙を汚染することも
なさらずに
生活 暮らし致しまする事を
神様に誓う心を持ちながら
生活 暮らしまするなら
御先祖様でありました お爺さん方が
語り残しましたる
神（や） 人間の話
永遠永久に至るも
忘れ 失い 滅びます事もなく
若人方へ
まずは教えますと共に
物語を致しまするなら
一番最初に 神様方を
あがめ奉りまするもの
なのでありまする。

お互いに領しまする
北海道国土の
回りに暮らされまして
居られまする人々方
御一同様
親を持っております人ならば
親を養い
女房を持っている人ならば
女房と共に
心に鞭打ちながら

ウーラウムコーバシテ キワ
カムイ オーロワ トモウツ カシヌカル キロツア
ラカネーオーネウツ
エイオチャカシマレー キーワ ネヤクン
マウツネパー アウツパー シカウツパカルパ
キーワー ネーヤクン
ネーイーコーラチーノー
カムイ コ ニンコル ニスウツ キ
ピンネパ アウツパ オーレン
アーコ シキル アンキワ ネヤクン
ネーイコラーチーノー カムイ コールロッア
シーオйнаネ イテムカ アリ
ウタリ コクシーシノ アパー コクシシノ
ウーネウツ
ヘモカイカイネウツカ キイカ コイサウムノーボ
シノオйнаネ カムイオйнаマツ ウータリ
コルロッア シノオйнаネ テムコロ カーシータ
ウーツワシカーラウツ アンキー カーネ
スクーウツ ホーラリ アニー ネヤッカ
アエイヌ アリ アエウツ アナウツネ
ワーヤサウツ ワイルキノ ランペテツペ ネクス
ヤイキレ イララ セミンチヤ キーア ヤッカ
アエコウツタヌ アンキー ヤークン
シーロウルー キサーシケ
アーヨーロー キサーシケ アンキワ ネヤクン
カムイ シーアンテ
アーヨロー シーロウル インカーラン
オーカイキワ ネーヤクン
シユウツケ カンチュ アウツ ホーロオチュ
シユウツケ イシターイキ レーラ レラスイネーノ
ウーエシーノイパ キ シンネノ
ヌータウツカ オーシマ
コターンカシ コエーシタイキ アンキワー ネーヤクン
ヌーターウツ アパンナシシカ
コータン アペーワンカ
ピチュウポネ シンネノ
アウコチャルパ アンキワ ネヤクン
ウネウツ オカアムキリペ ネヤッカ
イーリクルパーラーノ
アオーチシテレ アンキワー ネーヤクン
アエイヌ ウタリ エイ
ヤイベケンルカリレ キクニイッ
ソーモ ネールエ ターパンナ。

励まし合ひまして
神様より与え授けられましたる
公益を
貯えまして
春の始めとなり
ましたなら
その様に
神様に念願致し
冬年の始めへ
御向かいまするなら
その様に 神様が領しまする
聖なる恵みにて
親類共々 親友共々
何も
あわてふためく事もなく
最高に尊き聖なる女神様が
領しまする 聖なる腕の上で
お互いに愛され致しながら
生活していきましても
人間という者は
おろかなまちがい多い解らぬ者なので
気ままや いたずら でたらめをしても
(神が) ほったらかしになさいましたなら
大自然を汚染し
宇宙を汚染しましたなら
神の怒り
宇宙や自然の見せしめが
ありますなら
激しい降雹 豪雨が落下し
激しい突風 竜巻が
くるりとねじれますかのように
土地の上に当たり
土地にぶつかりまするなら
土地を荒れ狂わし
部落を破壊し
木っ端みじんに
散らばしましたなら
何らかかわりなき者も
友引にあうかのように
彼らを泣かせましたならば
人々達は
晴れ晴れした気持ちになるもの
ではありません。

ヘマンター アエイヌ ウタリー
ヤイキレ キーイカ
ラーンーパランパ キー カーネー
スークウツ ホラルパ キークニネ
アーオロパクステ アンキー カーネ
シユウウツウツケカ アンキーイッ ネルエ タンパナ。

カムイ コルーロツァ シーオイナ ヌプルペ
アエイヌ ラモルオシケ アコ
オシロマレキワー イーコレキーヤン。

カームイ ペーンチョロカ
イタウツ ペーンチョロカ シーネ ペンチョロネ
ウーチョロコパシテ
ウーチョロコノイパ アンキワー ネヤクン
ウーカーオーシニ アンキイッ ネルエ タパンナー。

カームイ オカイロツ アクス
アーエイヌ ネーヤツカ スークウツ
ホラルパーキ エイアシカイキイッ
アエイヌ オカイロツァクス
カームイ ネーヤツカ
アーリイッレロツテアーニ ターパンナ。

カムイ コールロツァ
シーオイナネー ヌプルペ アーハンケ
ニナンケレ アンキ ポロセ
アーリキンテ キーハエ ネールエー ターパンナー。

アーエロツァ イータツ イーエ
ウンピーイッカ コイサーウムノーポ
エイソコル キワ イーコレキーヤン。

ツーム ヤウム レラ
ニーシクロリ アーウココロツァ ヤーユンクウル
モーシロル コーエイカーランケ キワ ネーヤクン
カムイ エーイ ヌプルキ
タークサ ネー アユーンキ ターパニ アーリ
ウーシンナイ カムイ コーオシノツキ
アーエイヌ イーサウム モシロル オレン
アエーマーツカイパ キー クニネーノ
サンニヨー キーワ イーコレキーヤン。

悪い人々達が
気ままにする事も
ほどほどにしながら
生活する様にと
言いかせましながら
固く禁じまする事なのであります。

神が領されまする 聖なる偉きものを
人々の心の中へ
納受させて下さいませ。

神の真心と
言葉の真実が 一体になって
互いに励まし合い
互いに頼り合いましたなら
お互いに頼り合いまするものなので
あります。

神が居られまするので
人々も生活し
暮らして行く事が出来ますし、
人間が居りまするので
神様も
崇め奉られまするものであります。

神様が領されまする
聖なる偉きものを近くに
引き寄せまする お唱えを
差し上げまする声なのであります。

申し上げまする言葉を
お疑いなさる事もなく
お信じなさって下さいませ。

中が冷たき風、
雲影が お互いに領しまする北海道の
国土へ近づきましたなら
神様が^{とろと}貰ひまする
手草という扇 このものにて
異神が遊ばれる
人間の居ない国土へ
逆もどりなさる様に
お計いなさって下さいませ。

ネワ ネーヤクン
ネーイ オーカケタ ウータリ コークーシシノ
ウエヤウム アンキ カネ
ホラルパ アンキ ヤクン
カムイ ネーヤッカ アーエイヌ ネーヤッカ
ヤイコートウムカ キーイツ ネールエー タパンナー。
オンカミー イタッ
アーオシレパレ アーンキーナ。

ハエエエー。

この事について
その後 親族と共に
かばい合いをしながら
暮らしまするなら
神様も 人間も
自己満足しますものなのであります。
礼拝の言葉を
終わらせ致しまする。

はあ拝み奉りまするー。

(葛野辰次郎『キムスポ』1999年 p.166～181)

サツチェブをアペフチカムイに捧げます。



写真30



写真31

祭主のアペフチカムイに対するカムイノミが終わると、参列者の男性にトゥッキとイクパスイが渡され、全員でカムイノミを行います。

その際、祭主は、毎日の暮らしに欠かせない4つの神へのカムイノミを行う男性を指名します。

4つの神とはチセコロカムイ（家の神）、ミンタラコロカムイ（庭を見守る神）、アパチャウンカムイ（出入口の神）、ワッカウシカムイ（水の神）です。

指名された男性は、最初にアペフチカムイ、次にそれぞれのカムイのいる場所でカムイノミを行います。

祭主は自分を守護する神へカムイノミをします。



アパチャウンカムイへのカムイノミ

写真32



チセコロカムイへのカムイノミ

写真33



ミンタラコロカムイへのカムイノミ

写真34

4つの神へのカムイノミが続けられている間、祭主はトノトをいただき、後ろの女性にまわします。身内のフチはスワッコロカムイ（炉かぎの神）にトノトを捧げます。



写真35



写真36

4つの神へのカムイノミにつづき、葛野家が代々大切にしてきた14の神へのカムイノミを行います。

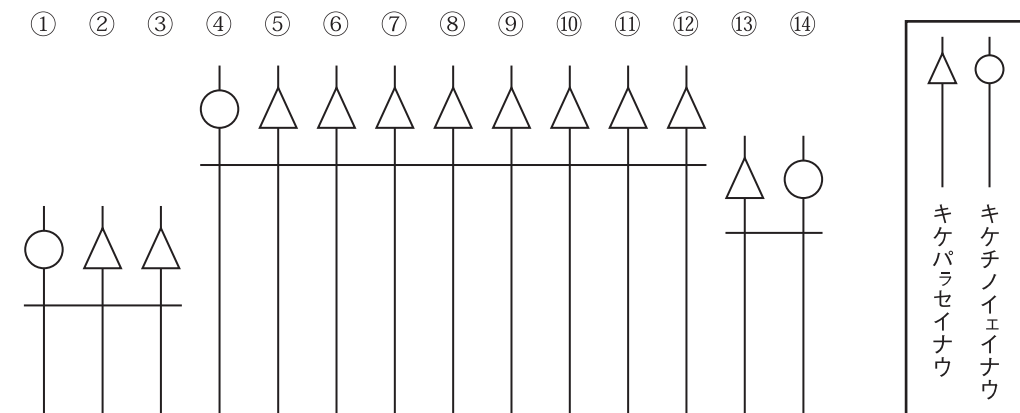
祭主をはじめ男性にトノトが注がれ、それぞれが受け持つ神に対して着座したままカムイノミします。



写真37

14の神

- ①ヌサコロ フチ（ヌサを統率する神）
- ②シリコロカムイ（大地を統率する神）
- ③キナスッカムイ（ヘビの神）
- ④ピンネアイ ハシノウコロ オイナマツ（太陽の神）
- ⑤サマッキヌプリ サンタツカシ アオランケ ヌプリコロウル（サマッキ山のヒグマの神）
- ⑥エサンヌプリ サンタツ アオランケ シトンピカムイ（恵山のキタキツネ神）
- ⑦ベケツウノイエ シビチャリ ハツタルバケ アオランケカムイ（静内川のカツパの神）
- ⑧ルベシベサンタツカシ アオランケ シトンピカムイ（ルベシベの台地のキツネの神）
- ⑨ノヤストツ アオランケ チカツカムイ（農屋の付近＝静内川上流を見守るシマフクロウの神）
- ⑩ベシトゥカリ サンタツカシ アオランケ シトンピカムイ（ベシトゥカリのキタキツネの神）
- ⑪カイベリリカシ エブンキネ シアシベタツネ カムイエカシ（沿岸を見守るシャチの神 ⑫の弟）
- ⑫レブンリリカシ エブンキネ シアシベタンネ カムイエカシ（沖合いを見守るシャチの神 ⑪の兄）
- ⑬パセオンカミ（葛野家の重要な神、シトキマツオイナフチ）
- ⑭ワッカウシカムイ（水の神）



キケチノイエイナウ（削りかけを擦ってあるイナウ）
 キケバラセイナウ（削りかけをちらしてあるイナウ）
 ※イオマンテ【道具編】参照

イチャルパ（先祖供養）

カムイノミを終えたあと、先祖供養をはじめます。祭主は、アペフチカムイへ無事に見守っていただくこと、先祖へこれから供養をはじめます、と報告をします。



写真38

祖父母または父母の命日や思い出したときなどに唱えることば

シアウルモンサモロタ コーヤイカーモレキー
シンリーツ ネー エカシ フチ、
ミチ ネ オナ、ハポ ネ オナー
アーホツエ モソサ アンキワ ネヤクン
モーオシ キワー イコレキーヤン。

シンリッ ウタリ コル
リーリケシ クー ネキワ
シンリッ ウタリ オレン
イツワシ アンキー ヤクン
アリキンテ キーロッパ
マラット ネ ソナウツ ウサー
シロマ トノト アシコロ
イーコーカンベカ キーワ
ウンコレキーヤン。

タナントー シンリッ ネー エカシ フチ
ミチ ハポー ネー ウタリ コロ
イホツパ トー ネーアクス
ウコシマ ソナウツ アリ
シンリッ ウタリ オレン
イツワシ アンキワ ネヤクン
シカムイ モシロル オロータ
ウコー ヌペツネ キワ
イコレキーヤン。

極楽浄土に 自ら休まれまする
御先祖なる祖父祖母
父なる親母なる親を
呼び起こしますするなら
目を覚まして下さいませ。

御先祖様の
子孫が私なので
御先祖様へ
供養致しますなら
差し上げまする
御馳走である供物又は
真の御神酒（濁り酒＝どぶろく）を
手を差しのべまして
受け取って下さいませ。

今日御先祖である祖父祖母
父母である方の
命日なので
寄せ合いの供物にて
御先祖様方へ
供養を致しますなら
神の国土の所で
お互いにおしなさって
下さいませ。

テウンノ アナーツネ
イノウ ツキ ウーッ
カムイ ネー アン ネーキークワ
オカアン ルエネーアクス
シカムイ ウン モシロルタ
ホサリペーントツ ヘキルペーントツ
エーイウンケシケキノキ
シアウルモンサモロタ
ノラーツチノ シニ オモンラーツチ シニ
アンキー カーネー
アーリキンテ キーロッパ
マラット ソーナウツ シウピシカネン
イメツ ウンルケ アンキー カーネー
ピリカノアン ウヌサシ
ウコヌペウツネ アンキー クニーネノ
モシイリ コロー シオイナ
イレスキー カムイモイレマツ
リキンテ キーロッパ シオイナ シプヤ
ターウッカシ エイー オーキワ
シホーシキ ルーイノ シアウルモシロル エン
テーシカル ネ ソンコ
シレパーレー キー ルエネ ナー。

シアウルモンサモロータ
オモンラツチ シニ
アンキワ ネーヤクン
パー エツ キコ ネイー コラチノ
シンリツ ウタリ オレン
イツワシ アンキワ ネーヤクン
シンリツ ウタリ ネーヤッカ
ヤイコトウムカ キーイツ ネルエ
ターパンナー。

ヌラッパーネーキ イツワシ
イタツ ポーロセ
アオシレパレキーナー。

これからは
御幣や杯を戴く
神になられて
居られます 事なので
神が住む国土に
振り向く事も 見向く事も
なさらずに
極楽浄土に
静かな休憩 ゆるやかで楽な休息を
なさりながら
お差し上げ 致しましたる
供物を前後左右へ
分け与えなさりながら
美しい慰め合い
うるおい合いをなさいます様に
国土を領する聖なる
育てはぐくむ女神様が
立ち昇らせましたる 聖なる煙の
頂上に乗りまして
最も先に極楽浄土へ
お便りであるお告げを
届けさせましたのであります。

極楽浄土で
ゆるやかなお休みを
なされまするなら
年が来るたびごとに
御先祖様方へ
供養 致しましたら
御先祖様方も
自己満足なさいます事なので
あります。

法要であります供養の
唱え言葉を
終わらせまする。

(葛野辰次郎『キムスポ』1999年 p.155~157)

供物を運ぶ

報告を終えると、屋外のヌササンでの供養になります。

アペオイからオキをとり、ヌササンに運びます。供物もヌササンに運びます。

新ひだかでは老若男女、身内やお客にかかわらずヌササンでのイチャルパに参加してかまわない、とされています。供物も皆で運びます。

イチャルパの時は、玄関を出て右回りでヌササンに向かいます。

チセにはアペフチカムイの側に男性が残ります。

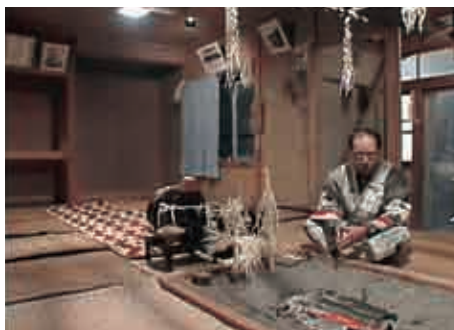


写真39

チャルパ

最初に祭主がヌササンにイノウを立てます。



写真40

次に、供物をチャルパします。

祭主と男性は自分の父系の先祖に対して供養を行います。



写真41

祭主に続いて、参列者がそれぞれの先祖に対して供養を行います。



写真42

女性は自分の母系の先祖に対して行います。
チャルパしたものは自分でもいただきます。



写真43

祭主と身内のフチが、最後のトノトを送ります。
「これが最後のお酒ですよ」と報告し、ヌササンでの供養が終わります。
持ってきた供物やトノトは残さずに、全てを送ります。



写真44



写真45

終了の報告

チセにもどり、祭主はアペフチカムイヘイチャルパの終了を報告します。

報告が終わると、男性は着座したままそれぞれがカムイノミをした神に対して終了の報告をします。



写真46

男性の客人が空になったシントコを受け取り、女性の客人と向き合います。

男性と女性の客人はシントコのふたをあげ、シントコに巻かれたキケの先端でシントコの内側をなで、トノトで湿らせて、しばります。



写真47

男性と女性の客人が、そのキケを首に掛け合います。

このキケは家に持ち帰ります。

キケをもらうことは、イチャルパに参加したこと、招かれたこと、の名誉とされています。



写真48

シントコを元の位置にもどし、男性はヌササン、アペフチカムイ、トッキとイクパスイにオンカミします。



写真49

後片づけ

身内の若い男性が道具を片づけます。道具は一つずつ片づけます。このとき、参列した男性はオンカミをし、感謝を示します。



写真50

イナウをアペフチカムイに納める

イナウをアペフチカムイに納めます。

イナウを燃やした煙が立ち昇ると、皆の願いや思いが天の神々へ届く、と言われています。



写真51

イチャルパは無事終わりました。

Ⅵ 後祭り

翌日の早朝、日が昇る前に祭主と身内の男性はヌササンを見に行きます。ヌササンが乱れていないかどうかを確認するためです。

イナウが倒れていたりなどすると、祈りが届かなかったとされ、儀礼をやり直すそうです。



写真52

ヌササンの確認後、日の出を待ちます。

14の神の④ピンネアイ ハシナウコロ オイナマツ(太陽の神)に、3日にわたる儀礼を見届けてくれたことへの感謝を伝えます。



写真53

男性はチセにもどり、3日におよんだ儀礼の後祭りとして、アベフチカムイにカムイノミをしてトノトを捧げ、自分もいただきます。

神への祈り、先祖へ供物が無事届いたことを感謝します。



写真54



写真55

トッキ、イクパスイ、エトゥヌブなど、使用した
用具を片づけます。



写真56

儀礼が終わると、サケイナウをアペオイからぬいて、ロルンプヤラに向かって左側の桁の上に
差します。サケイナウはトノトをつくった証、すなわち重い儀礼が行われたことを示します。



写真57



写真58



写真59

葛野家で行われたイチャルパは、小さい子どもたちも参加しました。皆が平穩に暮らせることの願いや、神々をはじめ人を生かしてくれる自然界すべてのものに感謝する、という思いも伝えていくためでもあります。



写真60

おわりに

アイヌ文化は画一的なものではなく地域性があり、それぞれが特徴をもっています。このマニュアルでは、貝澤耕一さん、葛野次雄さんの協力を得て平取地方および新ひだか（旧静内）地方で行われている先祖供養を、その地域性を踏まえて、両家個人の「家」での儀礼として再現していただきました。

明治以降、アイヌの人々を取り巻く環境が大きく変化し、アイヌの人々も仏教や神道、あるいはキリスト教といった外来の宗教を信仰するようになりましたが、伝統的な信仰観は脈々と受け継がれて今日に至っています。現在、北海道内各地で行われているアイヌの人々の祭（催）事では、そのほとんどが先祖供養も併せて行っており、個人もまた各家々で伝統を踏まえた先祖供養を行っています。

参 考 文 献

先祖供養の実施にあたって、参考となる文献をいくつか紹介します。

●久保寺逸彦

- 1952：「沙流アイヌの祖霊祭祀」『民族学研究』16-3・4 日本民族学協会
(2001：『アイヌ民族の宗教と儀礼』久保寺逸彦著作集1 草風館 所収)
1969：「アイヌの祖霊祭り（シヌラッパ）」『アイヌ民族誌』下 第一法規出版株式会社
——：「アイヌのシヌラッパ（祖霊供養）の概要」『北海道の文化』17 北海道文化財保護協会

●財団法人アイヌ民族博物館監修

- 1993：「神々とひとびと」『アイヌ文化の基礎知識』草風館

●財団法人アイヌ民族博物館編

- 1990：「Ⅵ. 祖霊祭-シヌラッパ-」『イヨマンテ-熊の霊送り-報告書-日川善次郎翁の伝承にもとづく実施報告-』財団法人アイヌ民族博物館 (2003：『イヨマンテ-日川善次郎翁の伝承による-』伝承事業報告書2 財団法人アイヌ民族博物館 所収)
1991：「Ⅴ-2. シヌラッパ」『イヨマンテ-熊の霊送り-報告書Ⅱ-平成2年2月におこなったイヨマンテの実施報告-』財団法人アイヌ民族博物館 (2003：『イヨマンテ-日川善次郎翁の伝承による-』伝承事業報告書2 財団法人アイヌ民族博物館 所収)
1994：「1. 信仰」『山川 弘の伝承』アイヌ民族博物館伝承記録 財団法人アイヌ民族博物館
2000：「Ⅵ-5 後祭1/祖霊祭」『ポロチセの建築儀礼』伝承事業報告書 財団法人アイヌ民族博物館

●N.G.マンロー (小松哲郎訳)

- 2002 [1962]：「第八章 シヌラッパ (霊魂供養・祖霊祭)」『アイヌの信仰とその儀式』国書刊行会

●萩中美枝、畑井朝子、藤村久和、古原敏弘、村木美幸

- 1992：「(2) 十二月のイチャルパと豊作感謝のカムイノミ」『聞き書 アイヌの食事』日本の食生活全集48 社団法人農山漁村文化協会

●北海道教育庁社会教育部文化課編

- 1984：「7-6-6. イチャルパ (先祖供養)」『昭和58年度 アイヌ民俗文化財調査報告書』アイヌ民俗調査Ⅲ 静内地方 北海道教育委員会
1989：「6-5-7. イチャルパ (先祖供養)」「6-5-6. イチャルパ (先祖供養)」『昭和63年度 アイヌ民俗文化財調査報告書』アイヌ民俗調査Ⅷ 鶴川・有珠地方 北海道教育委員会

●北海道教育庁生涯学習部文化課編

- 1993：「6-5-6. 葬礼と先祖供養」『平成5年度 アイヌ民俗文化財調査報告書』アイヌ民俗調査Ⅷ 北海道教育委員会
1995：「6-5-6. 葬礼と先祖供養」(Ⅱ. 貫気別編)「6-5-6. 葬礼と先祖供養」(Ⅲ. 十勝編)『平成7年度 アイヌ民俗文化財調査報告書』アイヌ民俗調査ⅩⅤ 補足調査2 北海道教育委員会
1996：「6-5-6. 葬礼と先祖供養」(Ⅱ. 十勝編)『平成8年度 アイヌ民俗文化財調査報告書』アイヌ民俗調査ⅩⅥ 補足調査3 北海道教育委員会
1998：「6-5-7. 死生観」『平成10年度 アイヌ民俗文化財調査報告書』アイヌ民俗調査ⅩⅧ 補足調査5 北海道教育委員会

アイヌ生活文化再現マニュアル
先祖供養
【シンヌラツパ・イチャルパ】

2007年3月 発行

発行 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001

北海道札幌市中央区北1条西7丁目

プレスト1・7 (7階)

TEL (011) 271-4171 / FAX (011) 271-4181

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で禁止されていますので、あらかじめ財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構あてに許諾をお求めください。

